

思い出の腕時計 息吹再び

日用品であり、機械であり、工芸品でもある腕時計。大量生産、大量消費から、「良いものを大事に使う」という価値観の変化もあり、機械式腕時計に再び注目が集まっています。長く使う上で欠かせないのが維持管理や修理。それを担う人材育成の場が広がっています。



きょうの授業 修理の技 100分の1ミリの世界

刻まれた人生に価値

ロレックスなど高級時計のブランド名が記されたラベルのついた修理箱が、壁一面の棚に並び、東京都豊島区の共栄産業。時計の修理事業で業界トップ規模だ。キズ見のない約50人の技術者が黙々と、精密ドライバーを手に机に向かって作業している。全国の百貨店などの修理窓口から届く腕時計は月に約1万本。8割はクォーツ式時計の電池交換などが、裏蓋の開け方もわからないアンティーク時計や、メーカーにもパーツの在庫がない時計など手間のかかるものもある。

「お父様の形見だそうです。何とか直してください」
「他店では断られたが、どうしても修理してほしい」
一つひとつの箱には、窓口の担当者が客から聞き取ったメモが入っている。進学や就職、結婚の記念、形見分け……。時計には、様々な人の人生の思い出が凝縮されている。「時計の価値は値段だけじゃなく、思い出の重み。コメントのある時計ほど緊張するけど、何とか動かしたい」と、気合も入る人だ。「時計修理事業で入社8年目の小泉雄嗣さん(28)は語る。前職は機械メーカーのエンジニアだったが、時計の専門学校で学び、転職した。現在は機械式時計を1日に3、4本修理する。分解して古い油を洗い、磨耗した部品は交換。一つの時計に3000近くある部品の多くは1000分の1ミリの基本単位とする。緻密さと集中力が必要な仕事だ。50年以上前の機械式時計が持ち込まれることも多い。その時計が新品だった当時と同じ状態にまで修復しても、当時の水準では1日に1〜3分程度の誤差が生じるため、同じようにすればいい。」

このため、小泉さんにはこだわりがある。「未だ使っていたんだけどは時計に負荷を掛けないことが大事。その中で誤差が数秒以内に収まるように調整を心がけています」
1970年代に日本発のクォーツ時計が世界市場を席巻し、機械式時計の需要は冷え込んだ。その後、携帯電話が登場し、腕時計の実用品としての価値自体も薄らいだ。時代が変わり、現在は実用品としてだけでなく、装飾品や、子どもに引き継ぐ資産の間で、高級腕時計のコレクションを趣味とする層が増えているという指摘もある。



修理した時計をワインディングマシン(右)にかけ小泉さん。自動巻き機能がきちんと作動するかどうかが確認していた=2016年12月、東京都豊島区の共栄産業

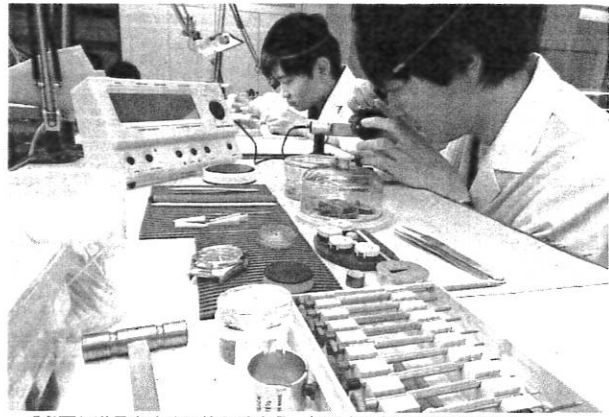


器用さ、根気に加え、想像力や発想力も

「ヒコ・みづのジュエリー・カレッジウォッチコース
大友宏幸シニアコースディレクター

修理には器用さも根気だけでなく、観察力、想像力、発想力が求められます。どこにも不具合がないのか。どんな道具が必要か。同じメーカーの同じ型の時計でも、状態は使われ方などによって様々で、一つひとつの時計に学ぶ姿勢が欠かせません。

「必要ない道具をすぐに使えるよう、机の上の整理整頓が欠かせません」と平野さん(手前)は語った。奥は佐々木さん=2016年12月、東京都渋谷区の「ヒコ・みづのジュエリー・カレッジ」



「必要ない道具をすぐに使えるよう、机の上の整理整頓が欠かせません」と平野さん(手前)は語った。奥は佐々木さん=2016年12月、東京都渋谷区の「ヒコ・みづのジュエリー・カレッジ」

専門学校で人材養成

独特な時計の世界。かつては親方の元で修業を積むケースが多かったが、最近では時計の専門職を目指す、専門学校で

学ぶ人が増えている。その一つが、東京都渋谷区の認可専門学校「ヒコ・みづのジュエリー・カレッジ」。ウォッチメーカーコースの期末試験では、講師が故障を想定し、不具合をつけて動かなくさせたクォーツ式と自動巻きの機械式腕時計を修理する。「不具合の箇所に見当をつけ、直して動き出すのを見せると、3年制コース2年で富山市出身の平野亮輔さん(20)は、ほぼ一人で、高校時代はものづくり同好会の部長を務め、ロボッ

(前田青穂)

トコンテストでも優勝した。ロボットを動かす「からくり」の分野に興味を持ったのが、時計の世界に進もうと思ったきっかけだ。同校は一般社団法人「日本時計輸入協会」から人材養成を求められ、97年にウォッチメーカーコースを開講。20年で1千人超の技術者を育てた。16年には大阪校にもコースを新設。時計の基礎技術や金属加工、外装知識を学ぶ2年制コースと、クロノグラフの機構も学ぶ3年制コースがある。東京校では約1500人が学ぶ。高校卒業後、大学を経て入学する人、社会人経験者が3分の1ずつだ。産学連携講座や国家資格取得の対策も充実している。同じ2年生の佐々木健斗さん(20)は昨秋、若手技術者の全国大会「技能五輪」の時計修理部門で、敢闘賞を受賞した。